

◆ 中野都税事務所長賞 ◆

「未来をつなぐ「税金」

東京都立富士高等学校附属中学校 3年 椎野 海羽

私は毎週土曜日、「ミライキタ」に通って学習している。「ミライキタ」とは東京都北区が行っている学習支援のことだ。北区に住んでいる小中学生を対象に、区内の児童館で個別授業を行っている。テキストがあり、先生に教えてもらうことができるにも関わらず、私達生徒は無償で学習できる。なぜなら「ミライキタ」は税金に支えられているからだ。

私が「ミライキタ」に通うきっかけになったのは、学習塾に通いたかったが兄弟が多く金銭的に難しかったからだ。中学校に入学し、周りのレベルの高さに不安を感じていた私は、どうしても学習のサポートを受けたかった。その時、「ミライキタ」のポスターを見つけ、それから三年間もお世話になっている。そこでは友達もでき、休み時間に先生や友達とコミュニケーションをとることは、私の楽しみのひとつだ。

私がこのように支援を受けられるのはなぜなのか疑問に思い、「ミライキタ」の先生に尋ねたことがある。先生は、

「学習がしたくてもできない児童のために、北区の税金を使って行われているんだよ。」

とお話しして下さった。調べたところ、一年間に約五兆五千億円もの税金が私達の教育のために使われているそうだ。また生徒一人当たりの年間教育費は小学生が約百万円、中学生が百三十万円にもものぼる。これだけ多くの税金が私達の学習のために使われているということに驚きと共に感謝を感じた。また、これまで商品を購入した際についてくる消費税にマイナスなイメージもあったが国の税収で最も大きいと知り、私達が学習を受けられることに感謝し、責任をもって消費税を払いたいと思った。教育が無償で受けられるというのは、「ミライキタ」に限った話ではない。私達が通う学校も、国民が払う税金に支えられている。勉強は、社会の基盤であり、学習機関が整った国では、国民一人当たりの生産性が高くなるため、必然的に安定した生活を送ることができるようになると言えるだろう。すなわち、言い換えれば税金とは「未来への投資」とも言える。そして私達学生は、税金を通じて未来を託され、応援されているのだ。税金は今と未来をつなぐための架け橋となっているのではないだろうか。

だからこそ、より明るい未来を作るために税金による応援、期待に応えようと置かれた環境に感謝を忘れず努力したい。また将来、経済的な余裕がなくとも十分な学習を受けられたことに感謝し、未来を担う若者を納税を通して応援することで、恩返ししたい。税金を通して私達と、日本の未来を応援して下さる皆さんに感謝を込めて。